

赤い壺（二）

種田山頭火

青空文庫

自分の道を歩む人に墮落はない。彼にとつては、天国に昇ろうとまた地獄に落ちようとそれは何でもない事である、道中に於ける夫々それぞれの宿割に過ぎない。

優秀な作品の多くは苦痛から生れる。私は未だ舞踏の芸術を解し得ない。私は所謂、法悦なるものを喋々する作家の心事を疑う。此意味に於て、現在の私は『凄く光る詩』のみを渴望している。

涙が涸れてしまわなければ、少くとも涙が頬を流れないようにならなければ、孤独の尊厳は解らない。

ほんとうに苦しみつつある人は、救われるとか救われたいとかいうことを考えない。そういう外的な事を考えるような余裕がないのである。

空には星が瞬たいている。前には海が波打っている。曙を待つ私の心は暗い。この暗さの中で私の思想は芽吹きつつある。私は悩ましい胸を抑えて吐息を洩らしている。その吐息の一つ一つが私の作品である。

夜は長いであろう。しかし夜はいかに長くても遂には明けるで

あろう。明けざるをえないであろう。闇の寂しき恐ろしさに堪えて自己を育てつつある人の前には、きつと曙が現われて来る。

同情したからとて涙を流す勿れ、同感だといって手を拍つ勿れ。心と心とのつながりは屢々、涙を流したり拍手したりすることのために破られた。

二羽の雀が一銭であるとして嘆く勿れ。それは死んだ雀の価である。生きた雀は自由に大空を翔けりつつあるではないか。

傷づけられて——傷づけられることによって生きてゆくものが

ある。

自己の醜劣に堪え得なくなつて、そして初めて自己の眞実を見出し得るようになる。

義人は苦しむ。偉大なる義人とは深刻なる苦痛を嘗めて来た人である。

正しきものは苦しまざるを得ない。正しきものは、苦しめば苦しむほど正しくなる。苦痛は思想を深め生活を強くする。苦痛は生を浄化する。

真面目な人と真面目な人とが接したところのみ生の火花が閃めく。彼等は友となるか、然らざれば敵となる、敵とならなければ友とならざるを得ないからである。

日本人ほど自然を眺める国民はない。そして日本人ほど自然を知らない国民はない。

日本人ほど小児を可愛がる国民はない。そして日本人ほど小児の心を理解しない国民はない。

（「層雲」 大正五年二月号）

青空文庫情報

底本：「山頭火随筆集」講談社文芸文庫、講談社

2002（平成14）年7月10日第1刷発行

2007（平成19）年2月5日第9刷発行

初出：「層雲 大正五年二月号」

1916（大正5）年2月

入力：門田裕志

校正：仙酔^{あびす}

2008年5月19日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.w.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

赤い壺（二）

種田山頭火

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>